令和8年度　学校評価表(中間)

校訓：「創造」

三次市立八次中学校

学校教育目標：自ら考え、挑戦するたくましい生徒の育成

令和8年10月19日

育成する資質・能力：「主体性」「表現力」「協働性」

○ミッション　八次を愛し、地域に貢献し、地域の元気を創り出す

○ビジョン
①夢や目標に向かって努力できる生徒
②多様性を認め、心優しい行動ができる生徒
③自分の思いを表現し、他者とできる協働できる生徒
④自ら考え、困難にも挑戦していく生徒

○重点項目　　授業を大切にする学校　　認め合い助け合う心優しい学校　　みんなで創る学校

【達成率(100%;S 、 100%未満90%以上;A 、 90%未満80%以上;B 、 80%未満50%以上;C 、 50%未満;D)】

	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	目標値	中間達成値	最終達成値	結果分析（○●）及び今後に向けた改善策（☆）
確かな学力と学びに向かう意欲	主体的・対話的で深い学びを創造し、カリキュラム全体で生徒を「認める・探る・繋ぐ」でチーム支援を行う	基礎的な学力と主体性の向上	①主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、一人一台端末の活用、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業研究を１人年１回以上実施する。(全教科) ②各種学力調査結果を基にした授業改善	① ・１人１回の校内授業研究の実施 ・生徒アンケート〈A〉「授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。」〈B〉「授業では、自分で考えたり、自分の意見をもったりしています。」〈C〉「授業で学んだことを家庭で復習したり、次の授業の予習をしたりしています。」 ② ・生徒アンケート「授業はよくわかります」 ・全国学力学習状況調査平均値 ・三次市学力到達度検査平均値	① ・実施率100% ・各項目肯定的評価80%以上 ② ・生徒アンケート：全教科・学年肯定的評価85%以上 ・全国学力学習状況調査：全国平均以上 ・三次市学力到達度検査：全国平均2.0p以上	①-9.1%【D】 -104.9%【S】 -86.9%【B】 -66.0%【C】 ②-99.4%【A】 -33%【D】 -0%【D】		①・校内授業研究実施率 9.1% ・第１回生徒アンケート 〈A〉[１学年]80.4%[２学年]82.3%[３学年]89.1%【全校】83.9% 〈B〉[１学年]67.3%[２学年]68.6%[３学年]72.7%【全校】69.5% 〈C〉[１学年]65.3%[２学年]41.2%[３学年]51.9%【全校】52.8% ②・第１回生徒アンケート結果 [１学年]89.0%[２学年]80.5%[３学年]84.2%【全校】84.5% ・全国学力学習状況調査[国語]本校60.0%　全国63.9%【-3.9】 [数学]本校57.0%　全国57.0%【0.0】 [英語]本校3.4　全国3.7【-0.3】 ・三次市学力到達度検査[国語]本校63.1%　全国66.8%【-3.7】 [社会]本校41.2%　全国49.7%【-8.5】 [数学]本校50.8%　全国56.2%【-5.4】 [理科]本校47.4%　全国52.1%【-4.7】 [英語]本校45.0%　全国54.8%【-9.8】 ●基礎的な知識、技能の習得ができていないことや問題文を読んで問われていることが理解できない、他の人の意見を比較したり、参考にして考えることが課題である。 ☆タブレットを活用したドリル学習で知識、技能の習得をさせる。生徒が自分の考えをもち、他の人の意見を参考にしたり比較できるように授業改善を行う。定期試験などで活用の問題に取り組ませ複雑な問いの問題に触れさせる。
		「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化	③授業や家庭学習等でタブレットを活用する場の設定 ④協働的な学習の場面で、タブレットを活用しての意見交流による相互思考の深化 ⑤振り返りの視点を与えたGIGA環境での記録	③ 生徒アンケート「自分なりの学習方法の一つとしてタブレットを選択し、自分の課題に合うようにタブレットを活用することができている」 ④ ・生徒アンケート「グループで活動するときにタブレットを使うことは、友達と協力して学習を進めることに役立っている」 ・教職員アンケート「『複数の生徒の考えを共有できる』といった協働学習の場面や、『一人ひとりに合わせた学びを展開できる』『自分で学習を調整することができる』などの個別最適化された学びにタブレットの活用効果が得られた」 ⑤GIGA環境での振り返りの実施	③項目肯定的評価90%以上 ④各項目肯定的評価90%以上 ⑤実施率80%以上	③88.5【A】 ④86.6%【A】 ⑤22.2%【D】		③第１回生徒ICTアンケート結果 [１学年]89.1%[２学年]84.1%[３学年]92.3%【全校】88.5% ④・第１回生徒ICTアンケート結果 [１学年]81.8%[２学年]86.0%[３学年]92.0%【全校】86.6% ・第１回教職員アンケート結果　77.8% ⑤第１回教職員ICTアンケート結果　22.2% ○昨年度指定を受けたリーディングスクールDX事業で得た知識や手法を今年度も継続し、１人１台端末とクラウド環境を日常的・効果的に活用させている。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現させるよう、授業改善を常に図っている結果が出つつある。 ●紙媒体とデジタルの併用をしており、振り返りでは紙媒体の方が効率がよいと感じている。校内研修でデジタルでのメリットや具体的使用方法を伝えていく。
豊かな心	豊かな心とコミュニケーション能力の育成	生徒指導上の諸問題の未然防止と初期対応	⑥生徒指導規程の周知徹底及び小中一貫した生徒指導規程に基づく組織的かつ迅速で丁寧な対応 ⑦特別活動（人間関係づくりと話し合い活動）を通して、主体的・協働的に動く生徒の育成するとともに積極的な生徒指導の推進	⑥問題行動発生(解決)率 ⑦i-check ・〈A〉「あなたは、友だちから、がんばったね、すごいねと、ほめてもらったことがありますか。」 ・〈B〉「あなたは物事を行うとき、次に何をすべきかを自分なりに判断して行動していますか」 ・〈C〉「つらかった時、悔しかった時、友達から優しい言葉をかけてもらったことがありますか。」 ・〈D〉「クラスの中で、誰かが困っているとき、みんなでその人を助けてあげよう、励ましてあげようとする雰囲気があなたのクラスにありますか」	⑥生徒指導上の諸問題解決率100% ⑦各項目肯定的評価80%以上	⑥生徒指導事案12件中解決事案11件(解決率91%) ⑦〈A〉87.7% 〈B〉81.0% 〈C〉84.4% 〈D〉84.4%		⑥各学年で組織的かつ迅速な対応が機能しており目標値に極めて近い成果をあげている。来年度に向けて生徒指導課題未然防止の観点をさらに強めて対応していく。 ⑦第１回i-check 〈A〉[１学年]87.1%[２学年]85.2%[３学年]89.3% 〈B〉[１学年]72.6%[２学年]86.9%[３学年]83.9% 〈C〉[１学年]83.9%[２学年]80.3%[３学年]89.3% 〈D〉[１学年]85.5%[２学年]72.1%[３学年]96.4% ○「i-check」の項目においても目標値に近い成果をあげている。各学年において生徒の様子を見取り適切な声かけや活動を取り入れている成果であると考えている。 ●一方で〈B〉項目で１年生、〈D〉項目で２年生の肯定的評価が低くなっている。先を見通した声掛けや、クラス、学年での集団づくりプログラム等を考えていく。
		不登校（傾向）の生徒に対する効果的なアプローチ（組織的対応による未然防止と社会的な自立支援）	⑧不登校等児童生徒支援コーディネーターを中心とした、不登校の未然防止と効果的な初期対応及び継続指導 ・総合質問紙調査の実施（年２回） ・生活アンケート及び全校面談の実施（年２回） ・不登校未然防止委員会の定期開催（年６回以上） ・関係機関連携（教育・福祉両面） ・１年生とSCとの面談（年２回）	⑧ ・不登校傾向生徒の減少 i-check 〈A〉「自分には良いところがあるとおもいますか。」 〈B〉「勉強やスポーツ、習い事、趣味などで自分なりに自信を持っていることがありますか。」 ・不登校生徒数の減少	⑧ ・アンケート各項目肯定的評価80%以上 ・不登校生徒数　前年度より減少 （R7　16人）	⑧〈質問A〉 1学年【C】 2学年【C】 3学年【C】 〈質問B〉 1学年【B】 2学年【C】 3学年【C】 ・不登校生徒　減少 （－12人）		⑧令和8年度i-check 結果 〈質問A〉[1学年]69.4%[2学年]62.3%[3学年]75.0% 〈質問B〉[1学年]88.7%[2学年]72.1%[3学年]76.8% ○質問Bの項目では、1年生と3年生は全国値を上回っている。 ●質問Aの項目では、全学年とも全国平均を下回っている。 ☆行事や役割をやり遂げさせ、できたことを肯定的に評価する場面を増やし、自己肯定感を育てていく。 不登校生徒数 30日以上　4人(3年生)／【20日以上30日未満　1年生1人・2年生1人・3年生2人】 ○昨年より大幅に減少している。 ●30日以上欠席になる生徒が、増え始めている。 ☆生徒一人一人を気を付けて見ていき，不登校未然防止委員会で、欠席の続く生徒には、早めの対応や取り組みを考え実行していく。
		生徒会活動充実による自治の力	⑨生徒会自治活動の充実と活性化	⑨生徒会自治活動の実施	⑨実施率100%	⑨50%		○生徒会主催行事や専門委員会等、計画的に取り組み、実行することができた。 ○フラワーロードの取組について、地域への説明会を生徒会主体で実施することができた。また、今年度新たな取り組みを、地域の方と相談しながら、計画・実施することができた。 ●行事日程がなかなか定まらず、計画的に進めることができない部分もあった。 ☆年度末に、次年度の年間予定を、地域・小学校とともに計画しておく。
信頼される学校	保護者や地域の皆様から信頼される学校の創造	校区のコミュニティースクールの推進 学校・家庭・地域との繋がりの深化	⑩「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の推進 ⑪各種通信やＨＰ等による定期的な情報発信 ⑫授業、行事等による学校公開の実施	⑩学校運営協議会の実施、地域学校協働活動の実施 ⑪保護者アンケート ⑫保護者アンケート（学校満足度）	⑩実施率100% ⑪各項目肯定的評価90%以上 ⑫各項目肯定的評価90%以上	⑩A ⑪91.7%【A】 ⑫89.6%【B】		○9月末までに2回実施している。計画的に実施できている。 ○「各種通信やHPなどを通じ、積極的に情報を発信しているか」については、概ね肯定的評価であった。 ●「授業参観や学校行事等を通して、学校は積極的に教育活動を公開しているか」については目標値を下回った。 ☆テトルですべての保護者に行事等の案内は出しているが、参加が少なく、十分に保護者の期待に沿うものになっていないのではないかと考える。今後の学校行事等はより詳細を伝え学校へきて生徒の様子を見てもらえるよう工夫する。
			⑬働き方改革の推進	⑬時間外勤務の時間の削減	⑬前年度比平均1時間減少 （令和7年度平均38時間）	⑬D（39時間）		○教職員のうち、45時間を超えている職員は、4名で、昨年度に比べ1名減だった。 ●4名については業務の軽重を見ながら一部の職員に業務が偏らないよう分掌部会や学年会内で調整を行い、継続して取り組む。